

職場だより

その一

一月四日 仕事はじめ、数日の休みも終えて、今日から私の仕事が始まる。机の上に重ねられた書状の一つ一つを丁寧に読んでみるうちに、私の目は、「新年あけましておめでとうございます、ことしからきつと、良い子になりますから、先生も、しんばいしないで下さい」と、鉛筆で一生懸命に書いた一葉の年賀葉書を見出し、暮のあわただしかつた職務日誌の教員が浮かんできた。

私の仕事は朝八時四十五分、待ちかまえたように面接に来るお父さん、お母さん等、

次々の面接でお昼の時間もわからず、一段落ではつと息ついた時は午後の二時頃などと云う日もしばしば続く。それからまた訪問に出かけねばならない。

いつも追いかけていられるようで、いららする。こうした仕事に関係のある機関が錯綜していて、一応完備しているようだが、運営するのは人間です。すらすらいく時も、いけない時もある。自分の仕事がい通りにほこぶ時は、本当に嬉しいけれ

児童福祉司の生活

東京都児童福祉司

水野鶴代

(二十八回生)

ど、不充分の時は気重く、憂鬱になる。こんな時に、こうした一葉のはがきにどんなに勇気づけられることか、そうだと、良い子になるよう、共に協力して行かねばならない。心からにつこりとほお笑んだ時の子供の顔。

この子は家出児として、身柄送致された、中学一年の女の子、一見して暗い感じの子である。小学校五、六年生の頃から、フイと一日、二日家を出てしまう。両親共

働いており、至つて

気性のほげしい父親は、この子がまだ生

まれて間もない頃、

召集を受け、復員し

て来たのが小学校一年生の時であつた。この子の乳幼児期に、父の存在がなかつたのである。父の愛情はその後生まれた二人の妹に注がれたのもむりはない。そのため父は何時もこの子にとつて、恐怖の対象でし

かなかつた。この子の家出は父の暖かい愛情を求める行動として現われている。

家出児と云えば一般的には、地方から東京の生活にあこがれて？ 或いは職を求めて？ 出てくる子供を指して云う。このよ

うな子供は警察署の手を通じて、児童相談所に送られて来る。

相談所は家出児ばかりではない。ぬすみをした子、家庭や学校で乱暴する子、学校へ行きたがらない子、智能の発達のおくれた子、手足の不自由な子、或いは盲児、ろう哑児等々、こうした問題児の相談をうける児童相談所は、科学的な技術と知識の下に、面接、環境調査、心身の検査を行い、その総合的な判定にもとづいて指導や措置をする。

子供の異常行動や、不良化の原因が、家庭にありと判定された時は、その家庭環境の調整が必要となつて来る。

こうした一つ一つの問題に、丹念に、根気よく、とりくんで、面接、家庭訪問を通して、親と子の関係を調整し、或いは子供の生活指導にあたるのである。

長い期間に型成された人格や、問題行動が一、二度の面接や指導で変化するものではない。事実、現実には仕事に当つておると色々の困難にぶつかる。その代りに、幾らでも解決の糸口を見出し得た時は、何物にも換えがたい、素直な、明るい笑いを味わうことが出来る。

職場だより

その二

〇〇駅からおりて十分、私は去る日、都立の施設から、棄児を里子として委託された里親の家庭を訪問した。

生後一年間位で、どう云う理由——事情か判らないが、豊島区の一隅に棄てられた。この俊行君は、施設に収容されて三年半、やつと暖かい家庭に引きとられたのである。

不幸な子供に、暖かい家庭を与えて、父と母の深い理解と、愛情を惜しみなく与えて頂く里親制度が実施されて、はや七年余、既に東京都には二五〇〇余名の里親が登録されている。

この里親制度に対する理解と進展に協力し、里親希望者の家庭調査、委託された里子が一日も早く、里親に適合するための努力、これも仕事的一端である。

俊行君はすっかり里父母になついている。小学校二年生の兄さんとも大の仲良しになつてしまつた。「この間電車にのりた」と云うので、省線を二廻りして来まし「と、明るい表情で話される里親さんに對して、深い感謝の氣持で一杯となる。

「誰にでもついて行く子なので、若しや悪い人に連れて行かれることがあると大変なので、名前や番地を覚えさせました」とも云われる。傍からお祖母さんが「俊行のお家は」と聞かれると、大きな声で番地まではつきり答えてくれた。

目の細い、少々鼻の低い、容貌から云えば、余り可愛い子とは思えないが、それでも「とても賢しいんです」と満足そうである。言葉のはしに暖かい愛情を汲みとり、心から俊行君の幸福を願つて別れをつげた。こうした細かい心遣いと愛情に培われて、すくすくと育つてゐる子供の姿をみる時、仕事に対する強い熱情を感じ、新しい勇氣を持たされる。

然し数ある里子の中には、不調になつて、他の里親に移つたり、施設に帰される者もある。

不調の原因には種々あるが、里子にある場合も、里親自身にある時もおこる。こんな時、本当に子供が可哀想でならない。血縁親子と違つて、里親の場合は、愛情に間隙が出来たら、下手な調整は、後々に禍根を残す恐れがある。

☆ ☆ ☆ ☆

★ ★ ★ ★